
編集後記

本年は6月の熊本地震、8月末の連続する台風による岩手・青森・北海道での被害、さらに10月に入ってからは鳥取での地震……とまさに災害列島と呼ばれる状況が相次ぎました。これらの災害で亡くなられたり直接被害を受けられた方々に対して心よりお見舞い申し上げます。日々透析療法に従事している我々にとっては、大きな天災に遭遇する度に「透析施設はどうなった?」「明日からの透析患者の治療はどうする?」との懸念が直ぐに浮かび上がるものです。特に6月の熊本地震では透析施設にも大きな被害があったものの、熊本県および隣県の透析医会の活動・連携が比較的良好に行われた様子が本号で詳しく記述されています。このような厳しい状況下で日本透析医会の「災害時情報ネットワーク」が、必須の手段として利用されている現状を見る度に、我々の組織の存在意義を改めて思い知るこの頃であります。

さて本号では熊本地震関連に加え、5月の当会研修会での講演内容、公募助成研究の報告の他に、臨床と研究でも興味あるテーマを盛り込んであり、是非ご一読頂きたいものばかりであります。今後とも本誌のさらなる内容充実に努力して参りますので、皆様方のさらなるご支援をお願い申し上げます。

広報委員会副委員長 鈴木正司